

文化財

	指定区分	名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日	摘要
重要無形民俗文化財	国	アイヌ古式舞踊	平取町	平取アイヌ文化保存会	昭和59年1月21日	アイヌの人々によって伝承されてきた芸能で、特に信仰と芸能と生活が密着不離に結びついているところに特色があり、芸能史的な価値が高い。
			新ひだか町	静内民族文化保存会		
			浦河町	浦河アイヌ文化保存会		
			日高町	門別ウタリ文化保存会	平成6年12月21日	
			新冠町	新冠民族文化保存会		
			新ひだか町	三石民族文化保存会		
		様似町	様似民族文化保存会			
無形文化財	浦河町	アッシ織り	浦河町		昭和58年12月6日	発明時期が不明であるが、オヒョウの繊維で織ったアイヌ民族の衣装(着物)で古くから継承されてきた伝統技術。
	新ひだか町	淡路豊年榊踊り	新ひだか町三石	延出郷土芸能保存会(保持団体)	平成18年3月31日	明治18(1885)年から始まった兵庫県淡路島から延出地区(現・豊岡、富沢地区)への集団入植で移住してきた人々によって伝えられた。明治38(1905)年に、延出地区で日露戦争の凱旋祝いの演芸会が行われて以来、9月の村祭りには演芸会が毎年開催され「榊踊り」が欠かさず踊られたことから、淡路出身者以外の入植者にも伝えられ、地域全体のものとして現在に受け継がれている。
	新ひだか町	歌笛越前踊り	新ひだか町三石	歌笛越前踊り保存会(保持団体)	平成18年3月31日	明治23(1890)年から始まった福井県大野地方から歌笛・川上地区への集団入植で移住してきた人々によって伝えられた。
	えりも町	えりも駒踊り	えりも町	えりも駒踊り保存会「勇駒会」(保持団体)	平成21年6月10日	青森県太平洋側、岩手県南部周辺の出身者が郷里の駒踊りを懐かしみ、独自の舞いを創りだし、昭和10(1935)年に住吉神社秋の例大祭で踊られるようになったのが始まりであるとされている。
	えりも町	襟裳神楽	えりも町	襟裳神楽保存会(保持団体)	平成21年6月10日	航海の難所といわれた襟裳岬沖を通る船の安全と大漁を祈願して舞うと伝えられる。文化11(1814)年に襟裳岬に襟裳神社が建立されて以来、奉納の舞として受け継がれている。
重要有形民俗文化財	国	北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション	平取町二風谷	平取町及び個人(萱野志朗)	平成14年2月12日	萱野茂氏が二風谷を中心に収集した資料で、由来が比較的確であり、生活用具が諸分野の全般に亘って網羅的に収集されており、伝統的な暮らしの全容や地域的特徴を知ることができる。
重要文化財	国	蝦夷三官寺等澗院関係資料	様似町本町	等澗院(様似町教育委員会)	平成17年6月9日	等澗院創世住職秀暁の選任(享和3年)からの住職記12冊、什物帳1冊、書付(寺祿通減法通知書)1冊。百万遍念珠箱1点。
有形文化財	北海道	静内御殿山墳墓群出土の遺物	新ひだか町静内古川町	新ひだか町	昭和43年3月29日	御殿山式土器及び漆塗の櫛玉類等多数の副葬品で、縄文文化後期ないし晩期の墓制、葬制、習俗を知る上で貴重な品々である。
	様似町	等澗院護摩堂	様似町本町	等澗院	昭和40年11月1日	オコタヌシ(栄町)に建立された等澗院の初代住職、秀暁の請願により文化8年に竣工。北海道開拓と様似の歴史を物語る代表的な建物。
	様似町	和助地藏尊	様似町槻満	和助地藏奉賛会	昭和44年3月1日	寛政11年(1799年)様似山道開発工事で活躍した斉藤和助の、旅人の利便をはかるなどの数々の功績を讃えて建立された御影石造り座像。
	浦河町	迎賓馬車	浦河町西幌別	(浦河町)	昭和57年3月19日	明治40年に設立された日高種馬牧場で迎賓用に使用されていた馬車。
	浦河町	縄文式土器(後期)	浦河町西幌別	(浦河町)	昭和57年3月19日	上東栄遺跡から出土した縄文時代後期(約3,000年前)の土器4点。
	様似町	弁財天像	様似町本町	等澗院	昭和57年10月10日	安政4年(1857年)に会所付近に建立された弁財社の主神として祀られていた木彫の座像で、江戸時代前期、松井右近作(推定)。
	様似町	薬師如来三尊仏像	様似町本町	等澗院	昭和57年10月10日	文化元年(1804年)等澗院が蝦夷三官寺の首席に推された当時からの本尊で、江戸時代後期(推定)、黒田高山作。
	様似町	聖観世音菩薩像	様似町本町	等澗院	昭和57年10月10日	寛政年間(1790年)エンルム岬にあった観音堂の本尊で、鎌倉時代(推定)作者不明、様似最古の仏像。
	様似町	南無仏太子像	様似町本町	智教寺	昭和57年10月10日	聖徳太子二歳木彫像で、南無仏太子彫刻史上貴重な作例。室町時代(推定)、作者不明。
	様似町	等澗院古文書	様似町本町	等澗院	昭和58年4月12日	等澗院創世住職秀暁の選任(享和3年)からの住職記12冊、什物帳1冊、書付(寺祿通減法通知書)1冊。
	えりも町	蝦夷一覽	えりも町新浜 えりも町郷土資料館	(えりも町)	昭和59年1月27日	アイヌ民族のアッシ織りや狩猟風景などを描いた風俗画。
	えりも町	住吉神社境内江戸時代建立の石碑群	えりも町本町	住吉神社	平成14年3月20日	嘉永3年(1850年)建立の手水鉢には、場所請負人福嶋屋喜四郎の刻、嘉永4年(1851年)建立の石灯籠脚台には、福嶋屋喜四郎と名越屋善吉、和田屋元吉の刻、文久4年(1864年)建立の手水鉢には、福順丸又助の刻があり、江戸時代の場所請負人と北前船の歴史を示す貴重な資料である。
	えりも町	襟裳神社境内江戸時代建立の石碑群	えりも町えりも岬	襟裳神社	平成14年3月20日	嘉永3年(1850年)建立の手水鉢には、讃岐薬師屋虎蔵の刻があり、升屋は場所請負人の雇船。狛犬台座には、幌泉場所の支配人卯三郎の刻。文久元年(1861年)建立の石灯籠を含め、江戸時代の場所請負人と北前船の歴史を示す貴重な資料である。
	えりも町	不動明王	えりも町本町	法光寺	平成14年3月20日	文化10年(1813年)3月に建立されたこの不動明王は、文化9年(1812年)にロシアに捕らえられ、文化10年(1813年)7月17日に松前に戻ってきた高田屋嘉兵衛の無事帰国を祈願する高田屋によって奉納されたと考えられる。
えりも町	一石一字塔	えりも町庶野	えりも町	平成14年3月20日	文化3年(1806年)建立。碑文は、海難者の追悼供養であるが、当時のアイヌに対し統制を保つため、法力による航海安全の願いを込めることで仏教の持つ尊厳さを印象づける狙いが伺われる。	